

●会期:7月22日(水)~27日(月)

坂部 隆芳 展 神の国

大倭日高見国と秦氏〈洋画〉



「聴霧」130×130cm、油彩・テクニクミックス

坂部先生は1953年静岡県に生まれ、1974年日本大学芸術学部デザイン科を卒業後渡仏、パリ国立美術学校にて研鑽を積まれました。気高さと抒情性に溢れる作品群はパリ近代美術館をはじめ、国内外のコレクターから極めて高い評価を得ています。これまでパリ、ブリュッセル、イスタンブール、ペイルート…と海外を拠点に制作活動を続けていた画家は、つねに遠くから故郷に想いを馳せ、見つめてきました。そして今展、自然信仰、御霊信仰、古代から続く神に対する畏敬と尊重を体現するにいたったのです。「神の国」。美しい我が国を想う画家の誠意の込められた作品の数々を一堂に展覧いたします。

【作家による舞踏パフォーマンス】●7月25日(土)午後3時から
※舞踏パフォーマンスに関する情報は横浜高島屋ホームページをご確認ください。

美術工芸サロン

鈴木 隆 作陶展

8月の予告

- 会期:7月29日(水)~8月3日(月)
川又 聡 展(日本画) / 飾り団扇と日本画展
- 会期:8月5日(水)~10日(月)
茶道具特別奉仕会 / 夏の逸品会(総合)
- 会期:8月12日(水)~17日(月)
小西 潮 個展(硝子) / 美術のある暮らし Vol.I(平面・立体)
- 会期:8月19日(水)~24日(月)
潮 工房 展(硝子) / 美術のある暮らし Vol.I(平面・立体)
- 会期:8月26日(水)~31日(月)
武井 地子 展(日本画) / 瀬戸 毅己 展(陶芸)

ART INFORMATION

「美」との出会いを提供して1世紀。暮らしに「アート」をお届けします。

横浜高島屋美術画廊のご案内

7月

July 2026



「茶碗」15.4×H9.3cm

●会期:7月8日(水)~13日(月)

襲名記念 十四世 坂 高麗左衛門 展(茶陶)

◎美術画廊は毎週火曜、会場準備のため閉廊、最終日は通常通り営業いたします。

※都合により営業時間・催し内容が変更になる場合がございます。また、商品の販売中止・販売期間が変更になる場合がございます。

高島屋の美術

高島屋各店美術画廊・
展覧会のご案内



横浜高島屋美術画廊のご案内は
【公式】横浜高島屋美術画廊
のInstagramでも
ご覧いただけます。



●会期:7月1日(水)~6日(月)

吉水 快聞展 — 白幻 — 〈彫刻〉

吉水先生は、1982年奈良県出身、2005年伝宗伝戒道場を成満し浄土宗の僧侶となり、2011年には東京藝術大学博士後期課程博士(文化財)号を取得。伝統の美を継承しながら常に進化し続けています。高島屋で4回目となる今展では、「白幻」と題して従来の作風に一段と典雅な想像性が加味し、彫りの冴えや濃厚な深みへ誘う漆と截金を駆使した木彫表現を一堂に展観いたします。



「幻月」約 H7.6×W17.3×D17.3cm 〈木彫(檜・黄楊)・顔料・膠・プラチナ箔(截金)・漆・水金箔・貝(螺鈿)・錫粉など〉

芝康弘展 そこにある光、めぐる生命 — 〈日本画〉



「慈光」53.0×72.7cm (20号P) 紙本彩色

芝先生は、日常の何気ない風景の中に息づく生命の輝きを見つめ、画面を満たす柔らかな光と、時を越えて受け継がれていく生命の連鎖を描き出します。静寂の中に確かな体温を感じさせる作品群が、「大切な光」の物語を静かに語りかけます。本展では、サラブレッドや子どもたちを主題に、130号の大作から小品まで30余点を展観いたします。

●会期:7月8日(水)~13日(月)

襲名記念 十四世 坂高麗左衛門展 〈茶陶〉

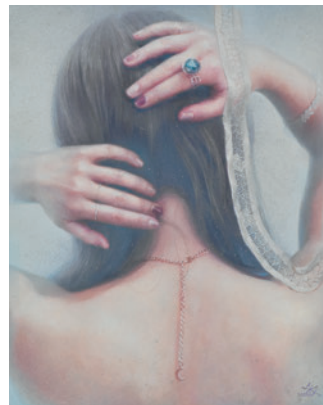
四百年余りの歴史と伝統を誇る萩焼の宗家、十四世 坂高麗左衛門先生の襲名記念展を開催いたします。ご当代は1988年に十三世 高麗左衛門氏の長男として生まれ、京都で陶技を学び帰郷後は母・十三世に師事し先人の想いを大切にしながら日々の研鑽を積み、坂高麗左衛門窯を継承。2022年に十四世を襲名されました。今展では、ご襲名のお披露目となる坂家伝統の古格を受け継いだ清新で伸びやかな力作の数々を一堂に展観いたします。



左:「鶴首花入」H29cm 右:「角花入」H26.4cm

●会期:7月8日(水)~13日(月)

小野彩華展 — 美の寓意(アレゴリー) — 〈洋画〉



「輝夜-Selene-」27.3×22.0cm (3号F) パネルに油彩

小野先生は、千葉県出身、2018年東京造形大学絵画専攻領域卒業後、白日会を中心として個展グループ展と精力的に発表。「美しさ」の基準は、一体誰が決めるのか…。SNSを通じて加速度的に画一化されていく現代の美意識。本展では画家が抱く「美の消費構造」への違和感を伝統的な寓意画の形式を借りながら、これら画一的美意識という枠組みから解き放たれた「美の本質」を新作20余点で展観いたします。

●会期:7月15日(水)~20日(月・祝)

美の予感 2026 — 象・彫・刻・塑 — 〈彫刻〉

40歳以下の彫刻・立体表現の作家による「美の予感—象・彫・刻・塑—」の3年ぶり2度目の展覧会。近年、国内のみならずアジア圏を中心に、日本の彫刻・立体作品は芸術性、技術の精巧さ等から評価が高まっています。日本で彫刻は古来、仏像制作や建築装飾等として発展し、明治の近代化以降は「彫刻」という美術作品としてモダンに洗練され戦後は彫刻の概念が“素材・技法”を超えて拡大・多様化していき、今世紀に入ってから、更に次のパラダイムを形成し始めているように感じられます。グローバルな課題に直面する世界の中で、それでも日常の些細な幸福を求めて止まないこの現代社会で、7人の作家たちが素材を信じ表現した新作を一堂に展観いたします。



黒田 恵枝「No.422 もけもけもの」
63×30×33cm
使われなくなった衣類・糸・綿・木材

【出品作家】(五十音順・敬称略)

石川 慎平・白谷 琢磨・神楽岡 久美・久保木 要・黒田 恵枝
塚本 将慈・吉田 泰一郎